

本田秀夫 [著]

新訂増補

子どもから大人への発達精神医学

—— 神経発達症の理解と支援

A5判並製・金剛出版

2025年4月刊

定価3,740円 (税込)

評者＝福田理尋(岡山県精神科医療センター)



“発達精神医学”という言葉はもしかするとまだ十分に普及していないのかもしれない。しかし、本書を読むことで、神経発達症の臨床における重要な指針となる概念であることが明らかとなる。神経発達症に携わる幅広い領域の支援者にとって、必携の一冊と言えよう。

本書には、神経発達症の概念や診断の歴史的変遷など基礎的な知識から、児童期から成人期まで縦断的にアセスメントするための視点、そしてそれを念頭に置いた支援やそのためのシステムに至るまで、包括的な内容が示されている。

全3部構成となっており、まず第I部では、発達精神医学とは何か、その中で見えてくる現行の診断基準の限界、発達精神医学の視点で実践・研究を積み重ねていくことの必要性について論じられている。

続く第II部では、著者のこれまでの研究・調査を紹介しながら、神経発達症の早期発見・早期支援や継続的な支援を提供することの重要性、そしてそれを実現するためのコミュニティケアのシステム構築について述べられている。また、後半では、青年期・成人期における神経発達症のアセスメントや支援について、非常に実践的な内容が示されている。ここでは、特性だけでなく、特性以外の素因や環境因がどのように影響し合う中で育ってきたのか、どの時期に診断を受けたのか、現在どのような状態なのかを縦断的に捉えることの重要性が指摘されている。また、成人期の臨床を知ることで、児童期や思春期にどのような支援が必要なのかも浮かび上がってくる内容になっている。

そして、第III部では具体的な支援や治療の実践が紹介されている。親支援や、支援のつなぎ、教育領域との連携、構造化、そしてコミュニティケアなど、読み進めていくことで、支援や治療を縦断的に行っていくためにどうすれば良いか、その道筋が見えてくるような内容となっている。また、成人期の診断告知の方

法や、ADHDを持つ成人期の人へのアプローチなど、日々の臨床に活かせる非常に具体的な内容も多く含まれている。

本書を読むことで、神経発達症の臨床における縦断的な視点の必要性を改めて強く認識することができた。不適応や二次障害はどのように形成されるのか、それを踏まえてどのような支援を構築すべきか、そもそも不適応が拡大しないような予防的介入はいかにあるべきかなど、対象とする年代・領域を問わず、神経発達症の支援における重要な視点を本書から教えてもらえたように思う。

実際に児童期から成人期まで一貫して関わることのできる支援者は限られるかもしれないが、さまざまな年代・領域に携わる支援者が発達精神医学の視点を持つことで、神経発達症を持つ人に対する一貫性のある支援や、それを為し得るためのネットワーク整備が進展するものと期待される。評者自身もその一助となれるように日々の臨床に取り組んでいきたいと考えている。